



令和新年あけまして  
おめでとつるぎざります



理事長 早川 明

社会福祉法人つるかわ学園  
つるかわ学園を支える会  
☎195-0051  
東京都町田市真光寺町  
186番地  
TEL (042)735-2220  
FAX (042)736-6374  
HP:tsurukawa-gakuen.com

会員の皆様は新しい年をどの様に過ごしたのでしょうか。

平成三十一年は四月三十日に終わり、五月一日より令和元年に、新年は令和二年になります。

昨年十一月の大きな行事であったつるかわ学園ふれあいまつりは秋空の下、盛況に開催、沢山の来場者がありました。同じ青空のもと、天皇陛下即位に伴う祝賀御列の儀パレードではお二人の笑顔があふれ、平成の時代は終わり、新しい令和の時代の開始を感じ取りました。

振り返ってみますと、平成元年は一九八九年(昭和六十四年)一月八日より始まり、私にとっては大変記憶に残る年となりました。十一月九日ベルリンの壁が崩壊し、十二月米ソ首脳がマルタ会議で冷戦終結を宣言した年だからです。私は団塊の世代なので、第二次世界大戦戦勝国米国が主導する冷戦下で、四十二年間生活してきたのですから世界は大きく変わっていくのだと驚

愕しました。東ドイツはもとより世界の多くの人が民主主義と自由が広がる希望に胸をくぐらませたはずですが。

同時に、日本国内は八十九年四月消費税三%の導入開始、九十五年阪神淡路大震災、十一年東日本大震災の発生等々相次ぐ大規模自然災害が多発しました。また昨年の台風十五号、十九号、二十一号の強風水害ダメージは甚大にして、いまだに三千人弱の避難者の皆様は復興に苦しんでいます。

ベルリンの壁崩壊から三十年、平成開始から三十年新しい令和の時代、日本は、世界はどこへ向かっていくのでしょうか。非常に難しい選択を国民一人ひとりはこれから求められていくでしょう。道を踏み間違えないためには歴史的事実を忘れずに学び、そこから深く考慮していくように求められています。

私なりに、一年を振り返ってみますと、退職後六十五歳からの生活は、体力、知力の衰えと向かい合いつつ、新

しい生活スタイルや精神の自律を築く又順応する時期であり、知らず知らずストレスが溜まっていたのでしょつか。そのような中で、手に取った小冊子「抜筆のつづり」(熊平製作所発行)に掲載されていた坂東眞理子氏(昭和女子大学学長)の一文に出会いました。坂東氏は道元の「徳ありはほむべし

徳なきはあわれむべし」の言葉に触れ、日々の生活中に忘れず取り入れたことで、イライラすること、腹立たしいこと、恨み妬むことが少なくなり、ある日気が付いたら気持ちが悪く落ちて来た楽になっていたと述べています。私は坂東氏の一文を読み進んでいるうちに、本当にストンと腹の中に道元の言葉が落ち、以後「徳ありはほむべし徳なきはあわれむべし」の言葉を勝手に自分なりに解釈し唱え、人間関係などで気持ちが悪くなっています。この世に一人しかいない七十歳を超えた自分を自分が認めないでどうして心の平安が保てるのでしょうか。考え方もありますから、図図しく生きようと自身を励ましていきます。

消費税十%実施に伴うキャッシュレス決済のポイント還元セールは本年六月末日までです。ところでポイント還元セールは私たちがの税金なのだとの心に抱えて、大いに活用している人はどのくらいいるのでしょうか。私たちが生活防衛のためポイント還元セールを活用すればするほど、国の借金が増える仕組みになっているようです。これは愚民政策なのかなとひとり考え込んでいます。

今夏は東京オリンピック、パラリンピックの開催年。利用者職員の方もそ

の熱狂に包まれたひと夏を楽しむのではないかと思います。

これから私たち一人一人が築き上げていく令和の時代、職場で働く職員の一人一人が気持ちよく働け、事業所は利用者の方の微笑みに満ち溢れるように切に願ひ、新年のご挨拶とさせていただきます。

各事業所管理者より

新年を迎えて  
創立六十周年を迎えて

つるかわ学園施設長

月岡 亮

新しき年、2020年を迎えました。三十年間続いた「平成」が終わり、「令和」時代が始まった昨年も、大きな台風が日本列島を縦断し、甚大な被害を受けました。次から次へとやってくる自然災害、今年もはやっとなってきます。令和二年はつるかわ学園の創立六十周年の年でもあります。

昭和三十五年四月三十日、児童福祉法に基づく「精神薄弱児施設」として認可されました。当時の施設名は「かねこ学園」で昭和四十四年に「つるかわ学園」になり、創設以来、長い児童施設の時代を経て平成六年、成人施設の施設整備事業を行い移行しました。昭和三十五年、「福祉」という言葉もあまり耳にしない時代、豊かな自然に囲まれたこの町田市真光寺に知的障



害児が安心して生活できる場を求め、「かねこ学園」が、当時のご家族の力により立ち上がりました。施設創設に携わった方々をはじめ多くの先人の努力と、長年にわたる地域の方々、ご家族や支える会支援者、ボランティア、関係機関の皆様を支えられ今年で六十年を迎えます。ご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

施設とともに年を重ねる利用者の皆さんも、地域社会の一員であり、つるかわ学園の歴史や様々な活動の紹介や地域行事へ参加することにより、地域や関係者の皆さんの更なるご理解と協力を賜り、「心豊かに安心した生活」ができる施設づくりにつなげていきたいと考えます。

六十年の歴史と理念を大切に今年も推進していきたいと思えます。本年もよろしくお願いいたします。

**共同生活援助事業、トリーム**  
管理者 外川 珠枝

新年あけましておめでとつございませう。

トリームは二つのユニットで定員二十五名です。

一つはバックアップ施設であるつるかわ学園のすぐ側にあります。平成二十年十月につるかわ学園利用者の最初に開設したグループホームです。

災害時や緊急時にはつるかわ学園と一体となって対応できるので安心して生活しています。十年経った今、障害

の変化や加齢に伴っての変化で半数の利用者が入れ替わりました。就労している方も少しずつ時間や日数を減らし本人に無理のない働き方をしています。もう一つは、平成二十二年四月につるかわ学園利用者の二番目のグループホームで、野津田町にあります。環境も良く、天気の良い日は富士山の山頂部分が見えます。周りは竹林で鶴見川も流れており、川のほとりは散歩コースにもなっています。

当時はこのグループホームで生活出来ていた方も障害の変化や加齢に伴う変化で、本人に合う住環境を見直し、数名の利用者が入れ替わりました。

今現在、上は六十六歳から下は二十三歳で平均年齢約四十八歳です。課題は増えるばかりですが、地域で暮らしていくために、地域住民と顔見知りの関係を構築し、より楽しく、よりいい生活、より安全な生活をしていただくために、法人と連携しながら歩んでいきたいと思えます。

**町田通勤寮**  
寮長 三階 広明

今年もよろしく願います。

いよいよ二〇二〇オリンピック・パラリンピックの年が明けました。夏まではこの話題でにぎやかなのでしようか。マラソン・競歩の会場変更等がありました。無事に閉幕することを祈っています。

さて、年が明けると、利用者の移動

(入退所)が本格化してきます。(利用標準期間の二年を迎える利用者が多いためです。)年度途中からポツポツと退寮していきますがどうしてもピークはこの時期になります。利用者本人の意向は十分配慮しながらの地域移行支援ですが、なかなか本人の思い通りには進まないケースが多くあります。どこに一致点を見出すかが大切なのですが、「リアルな生活感」が納得しきれない利用者さんが多いと感じます。二年間でどこまでこの「リアルな生活感」を実感してもらえるのが、支援としての課題だと感じています。

通勤寮の本来機能を維持しながら、利用者の意思を尊重した支援に努めていきたいと思えます。職員一同、より一層の支援の充実を目指して努力してまいりますのでよろしく願います。

**地域生活援助センターフクシア**  
管理者 市川 嘉

新年あけましておめでとつございませう。本年もよろしく願います。

昨年はセンター職員をはじめ世話人・生活支援員の退職が次々とあり、なお且つ世話人の体調不良による長期病欠者も複数あり、業務を回すのに大変苦労をしました。

しかし、一段落ついた後センター職員及び世話人、生活支援員が次々と補充され事業運営が落ち着きを見せ始めました。町田市による指導監査も指摘

はほとんど無く、第三者評価も早めに受審し、安定した事業運営に繋がりました。

令和二年も職員一体となって利用者支援の向上を目指し努力していく所存です。今後もご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

**つるかわ学園相談支援センター**  
管理者 芹澤 政人

新年あけましておめでとつございませう。

相談支援事業の運営につきましては、各関係機関、地域の皆様からご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

障害者の相談支援に携わっておりますが、相談と一言で言っても、困っていることや、やりたいことだけではなく、利用者本人や家族も何が問題であるかも分からずに混乱していることもあります。障害特性や家族の状況は様々であり、いろいろな要素が複雑に絡み合っていることがあります。そのため、地域との連携は不可欠であり、課題を整理しチームとしてのアプローチが必要とされます。

平成二十四年四月から法改正による相談支援が再編されたことで、障害福祉では「サービス等利用計画」を通じて、一人の利用者に対して様々な分野から支援者が関わる仕組みが整ってまいりました。相談支援においては社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、医療ソ-



シャルワーカーの他、医師や看護師。国家資格を持つ支援者以外にも自治体の職員や生活保護担当の職員等、専門分野で見ても広がりを見せています。

「サービス等利用計画」は、各関係機関とのコミュニケーションツールとなり、各事業所のサービス管理責任者が作成する個別支援計画にも関係してきますので、総合的なチームアプローチを展開していくことが重要です。その連動性を強化するため、昨年は法人内の支援員全員を対象にして、「計画相談支援」についての研修を行いました。

今年も、包括的な支援を行い、利用者の方々が持っている力を最大限に引き出す「エンパワメント支援」を心がけて、夢や希望のある地域生活をサポートできるように取り組んでいきたいと思えます。また、地域で必要とされる相談支援事業所になれるように邁進していきたいと思えます。

本年もよろしく願っています。

### 各事業所の活動の様子

#### 【つるかわ学園】

大橋 由紀

十一月二日(土)に成瀬の体育館で町田市スポーツ大会が行われました。当日はお天気も良く絶好のスポーツ日和となりました。

今年もつるかわ学園からは多くの皆様が選手として出場し、パン取り競争

などの競技に参加しました。大玉運びや地球転がしなど、スポーツ大会ならではの競技では、皆チームワークを大切にしながら笑顔でがんばっていました。

初秋のひと時をいい汗をかいて過ごす事ができ、いい思い出となりました。



#### 【町田通勤寮】

#### 宿泊訓練

支援員 入江 就仁

例年、秋頃に実施する宿泊訓練を十月六・七日の二日間で行いました。今年の目的地は「北海道」。事前に利用者さんからアンケートを取り、大阪・長崎・北海道の三都市が候補として上がり、最終的に「北海道」となりました。宿泊訓練に当たり、自治会役員と密に連携を図り、出発前の声掛け・招集など協力を頂きながら進めました。また、

目的である「団体行動・協調性・社会性を養う」という点でも利用者さんに説明をし、実施しました。

一日目は北海道の羊ヶ丘展望台、大倉山ジャンプ台、札幌市内の車窓観光を中心に巡りました。普段、行くことが難しいのもあってか、利用者さんは目を光らせて写真を撮る・名産品を試食するなど思い思いの過ごし方で楽しんでいました。特に北海道は景観がとても良いので、景色を楽しまれる方も多くいらっしました。旅館では他団体の入室トラブル等、ハプニングもありましたが、懐石料理やカラオケなど例年と同じように過ごし、一日目を終えました。

二日目は小樽観光・白い恋人パークを中心に周り、小樽運河や名産品、オルゴール館など北海道でしか味わえないものを堪能し、後半は少し疲れも見られ、バスの車内で休息をとる方も多く見られました。帰りの飛行機の中では北海道を離れる寂しさもあり、「また行きたい」「今年の冬に一人旅を計画する」「帰りたくない」など思い思いの言葉を話ながら、帰路に立ちました。

今回の宿泊訓練では前述した通り「団体行動・協調性・社会性」というキーワードを基に集合時間を守る、周囲の方に迷惑をかけない、利用者さん同士で声をかけあう等、自主的に考えてもらい、行動してもらいました。全体的に集合時間を守ることが出来ていた印象ですが、周囲の状況を把握すること

は苦手な方が多かったようなので、また生活指導等で話をする機会を設けることとします。

一方で楽しむということについては利用者さん全体でとても有意義な時間を過ごすことが出来たと感じました。



#### 【町田市障がい者就労・生活支援センターりんく/つるかわ学園職業準備支援センター】

管理者 藤本 英理子

町田市障がい者就労・生活支援センターりんくでは、毎月第三土曜日に社会人講座「りんくサタデー」を実施し、仕事と仕事を支える生活に関して役立つ情報・知識などを登録者の方に楽しく学んで頂く場となるよう取り組んでいます。十一月の講座では毎年度末に実施する「次年度に向けて実施して欲しい講座」のアンケートの結果、一番リクエストの多かった「食事会」と



「ゲーム」を合わせ、「食事会&ゲーム大会」を実施しました。ゲームの中で「パネルトーク」を実施したのですが、障害の特性上、「コミュニケーションが苦手な方も多く、会社の昼休憩の際には雑談が難しいと悩まれる方も少なくないのですが、食事会後のお茶の時間というリラックスした雰囲気も相まって、参加した方の多くが「パネルトーク」を楽しまれ、回収した参加者アンケートでは「パネルトークがとても良かった」との意見が多く寄せられました。話しをするテーマを提示し、各々が持ったパネルにテーマに対する答えを書き、書いた答えについて一分間説明する、というものだったのですが、皆さん、どの方のパネルに記載された答えの発表にも、一分間の説明にも耳を傾け、「ご自分のことについても楽しそうにお話をされており、お互いを理解する意味でも、とても良い場となったように思います。」

りんくんの登録者の方や、つるかわ学園職業準備支援センターのOBの方の中に「職場の人と会話をしたいけれど何を話したら良いか分からない」と相談をされる方がいらっしやいます。一方企業の方から「休みの日に本人が話出来る場を」とのご相談を受けることがありますが、多くの方が一番長く時間を過ごす「職場」の中でも、人間関係構築のために、是非会話をする機会を設けて頂きたいと感じた瞬間でした。

第六回

「つるかわ学園ふれあいまつり2019」を終えて

ドリーム事業所主任 大滝 祐輔

「つるかわ学園ふれあいまつり2019」今年で六回目を迎える事ができました。

今年も例年同様、地域の福祉事業所によるクッキーや焼き鳥、甘酒などの販売があり、ふれあいまつりを一緒に盛り上げて頂きました。フリーマーケットは四団体の出店があり、手作り裁縫や衣類などどれも来場者の方に大変喜ばれていました。

今年度は地域の福祉関係者の来園も多くあり、貴重な交流の場として、来年度以降も継続して地域・各関係機関との連携を強化して行ければと思います。

ステージでは「多摩っ子」の皆様によるよさこい踊り、その他のステージではつるかわ学園の利用者と販売団体の利用者が一緒に踊り、随所に「ふれあい」を見ることが出来ました。

今後つるかわ学園の利用者、職員、ご家族と、地域の皆様が楽しめる行事として企画運営を目指して行きます。

最後に、当日お手伝いいただいたボランティアの方々、地域や各関係機関の方々など、多くの方のご厚意とご理解、ご協力いただきましたことに、改めてまして職員一同心より深く感謝申し上げます。



**つるかわ学園 ホームページ**  
 日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます。  
 アドレスはこちら!!  
 HP: [tsurukawa-gakuen.com](http://tsurukawa-gakuen.com)

つるかわ学園を支える会のご案内

「支える会」について  
 国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一歩の力の支えをこつした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。  
 どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一口年額三千円ですが、ひとりで何口か入っていただくことを歓迎、お願ひしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九

加入者 社会福祉法人 つるかわ学園